

ようだおごうちせき

用田大河内遺跡

(藤沢市No.328 遺跡)

調査期間 20101001～20110215

所在地 藤沢市用田

時代
縄文
中世
近世



作成日:20110304

概要

本調査は神奈川県藤沢土木事務所による、県道 22 号(横浜伊勢原)道路改良いわゆる用田バイパス建設に伴い実施されました。

本遺跡は平成6年度から順次調査を実施してきました。今回の調査はその最後にあたるものです。

近世では溝状遺構が多く発見されました。富士山の宝永噴火(1707年)以降の陶磁器類が出土しています。これらの溝状遺構の中でK6号溝状遺構は断面形がV字型をした、いわゆる薬研堀(やげんぼり)状の形態をしています。薬研堀は中世によく見られるものです。この溝状遺構を埋めた土の上層には、宝永噴火の火山灰が含まれていて、1707年段階では埋まっていないことがわかりました。一方ここからは15世紀代の陶磁器類やかかわらけ、それに宝篋印塔(ほうきょういんとう)の一部など中世の遺物もまとまって発見されました。これらの点からこのK6号溝状遺構は中世の段階で造られ、宝永噴火以降まで連続的ないしは断続的に使われていたものとみられます。

中世では掘立柱建物とピット群や溝状遺構などが発見されました。このうちC6号溝状遺構は、大きく開いたV字状の断面形をしています。この遺構は平成16年度に実施された第6次調査の際にも発見されており、今回はその延長部分が



▲ X II E2 K6号溝 空風輪・地輪出土状況



▲ K6号溝断面

発見されました。この遺構からは宝永火山灰は発見されなかったため、すでに噴火の際には埋まっていたものと考えられます。遺物は15世紀代の陶磁器やかわらけが出土しました。この陶磁器のうち一部がK6号溝状遺構のものと接合しました。このため、この二つの溝状遺構は、同時期に造られた可能性があることがわかりました。



▲ XⅡE2南 C1号溝全景